専攻分野/コース （英文名）	呼吸器内科学 （ Respiratory Medicine ）
研究指導教員	峯下　昌道
研究・教育の概略	当科では呼吸器疾患全般を対象として，研究・教育を行なう。中でも呼吸器インターベンションに関する研究は当科の特徴である。中枢気道狭窄に対する治療として，硬性気管支鏡と軟性気管支鏡を組み合わせて用い，腫瘍の焼灼，バルーン拡張，気道ステント留置等を行っているが、本治療の適応や効果判定に関する臨床研究は今年度も継続していく。気道狭窄の治療前後におけるチョークポイントの移動に関する気道内圧の測定や局所肺の呼気中CO_2，O_2を用いた病態解析に関する研究も継続して行う。難治性気胸に関しては造影による瘻孔診断と EWS 挿入および胸膜癒着による治療を行っており症例を集積している。肺癌の診断，治療に関しては豊富な臨床例に基づいて，画像診断，気管支鏡検査（クライオバイオプシー含む），胸腔鏡検査，遺伝子診断，化学療法などの研究・教育を行い，臨床治験にも積極的に参加する。気管支鏡検査に関しては，超音波内視鏡のエラストグラムの診断における有用性や，気管支鏡検査中のCO_2モニタリングに関する研究を行っている。気管支腔内超音波検査法は肺癌診断のみならず，気道狭窄や再発性多発軟骨炎などの病態把握のための研究にも活用している。喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）については豊富な臨床例に基づいて，その病態，診断法，生物学的製剤を含む治療法を教育するとともに、内視鏡的治療に関する臨床研究を継続し、都立大学との協同研究でレーダーを用いた呼吸モニターや肺機能検査に関する研究も推進していく。
研究項目	1. 気道狭窄に対する呼吸器インターベンション 2. 気道内圧，および呼気中CO_2，O_2を用いた呼吸生理学的検討 3. 難治性気胸の治療 4. COPDの内視鏡的治療 5. 気管支喘息の内視鏡的治療 6. 肺癌の診断と治療 7. 気管支腔内超音波検査法 8. レーダーを用いた呼吸モニターおよび肺機能検査
準備学習（予習・復習）	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。

2023 年度講義シラバス（１）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病態学			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病態を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患を症例を通して病態を理解し，管理方法を検討する				
達成目標	1．基本的な呼吸器疾患について病態を論理的に説明できる 2．基本的な呼吸器疾患の病態に基づいた管理を計画できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	閉塞性換気障害の病態	1	
2	拘束性換気障害の病態	2	
3	急性呼吸不全の病態 1	3	
4	急性呼吸不全の病態 2	4	
5	ARDSの病態 1	5	
6	ARDSの病態 2	6	
7	慢性呼吸不全の病態 1	7	
8	慢性呼吸不全の病態 2	8	
9	過換気症候群の病態	9	
10	肺胞低換気の病態	10	
11	肺循環障害の病態 1	11	
12	肺循環障害の病態 2	12	
13	無気肺の病態	13	
14	中枢気道狭窄の病態 1	14	
15	中枢気道狭窄の病態 2	15	

2023 年度講義シラバス（２）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて，気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支鏡の歴史	1	
2	気管支鏡の適応と禁忌 1	2	
3	気管支鏡の適応と禁忌 2	3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備 1	4	
5	周辺機器 1	5	
6	局所麻酔 1	6	
7	気管支鏡の挿入と観察 1	7	
8	気管支の解剖 1	8	
9	気管支鏡所見 － 正常編 1	9	
10	気管支鏡所見 － 異常編 1	10	
11	気管支鏡所見 － 異常編 2	11	
12	気管支鏡所見 － 異常編 3	12	
13	胸腔鏡の歴史1	13	
14	fexi-rigid type 胸腔胸の適応と禁忌 1	14	
15	fexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備 1	15	

2023 年度講義シラバス（３）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	経気管支的肺生検 1
2		2	経気管支的肺生検 2
3		3	経気管支的肺生検 3
4		4	EBUS―中枢気道への応用 1
5		5	EBUS―中枢気道への応用 2
6		6	EBUS―中枢気道への応用 3
7		7	EBUS―中枢気道への応用 4
8		8	EBUS－末梢病変への応用 1
9		9	EBUS－末梢病変への応用 2
10		10	EBUS－末梢病変への応用 3
11		11	EBUS－末梢病変への応用 4
12		12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 1
13		13	胸腔鏡所見 1
14		14	胸腔鏡所見 2
15		15	胸腔鏡の合併症と対処法 1

2023 年度講義シラバス（４）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	西根　広樹	担当教員連絡先	内線　80484		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する				
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線，胸部CTの読影法を解説する				
達成目標	1．基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線，胸部CTを読影できる 2．画像所見に基づいて，鑑別診断を列挙できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	胸部単純エックス線 － 正常編	1	
2	胸部単純エックス線 － 浸潤影	2	
3	胸部単純エックス線 － 結節影	3	
4	胸部単純エックス線 － びまん性陰影	4	
5	胸部単純エックス線 － 無気肺	5	
6	胸部単純エックス線 － 応用編 1	6	
7	胸部単純エックス線 － 応用編 2	7	
8	胸部CT － 正常編	8	
9	胸部CT － GGO	9	
10	胸部CT － consolidation	10	
11	胸部CT － 結節影	11	
12	胸部CT － びまん性陰影	12	
13	胸部CT － 無気肺	13	
14	胸部CT － 応用編1	14	
15	胸部CT － 応用編2	15	

2023 年度講義シラバス（５）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器画像診断学Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	西根　広樹	担当教員連絡先	内線　80484		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	呼吸器画像の読影に習熟する				
講義計画	症例を通じて胸部単純エックス線，胸部CTの読影法を解説する				
達成目標	1．基本的な呼吸器疾患について胸部単純エックス線，胸部CTを読影できる 2．画像所見に基づいて，鑑別診断を列挙できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	肺炎の画像診断 1
2		2	肺炎の画像診断 2
3		3	COPDの画像診断
4		4	胸膜炎，膿胸の画像診断
5		5	間質性肺炎の画像診断 1
6		6	間質性肺炎の画像診断 2
7		7	サルコイドーシスの画像診断
8		8	肺胞蛋白症の画像診断
9		9	肺水腫の画像診断
10		10	肺癌の画像診断 1
11		11	肺癌の画像診断 2
12		12	縦隔リンパ節の読影
13		13	胸膜中皮腫の画像診断
14		14	PET
15		15	胸部MRI

2023 年度講義シラバス（６）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	2単位（前期 2）	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して，その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支喘息の病理 1	1	
2	気管支喘息の臨床 1	2	
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床 1	3	
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床 1	4	
5	特発性間質性肺炎の病理 1	5	
6	特発性間質性肺炎の臨床 1	6	
7	好酸球性肺炎の病理 1	7	
8	好酸球性肺炎の臨床 1	8	
9	過敏性肺臓炎の病理 1	9	
10	過敏性肺臓炎の臨床 1	10	
11	膠原病肺の病理 1	11	
12	膠原病肺の臨床 1	12	
13	サルコイドーシスの病理 1	13	
14	サルコイドーシスの臨床 1	14	
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床 1	15	

2023 年度講義シラバス（７）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	西根　広樹	担当教員連絡先	内線　80484		
単位数	2単位（後期 2）	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して，その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1. 基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2. 基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	肺腺癌の病理 1
2		2	肺腺癌の臨床 1
3		3	肺扁平上皮癌の病理 1
4		4	肺扁平上皮癌の臨床 1
5		5	小細胞肺癌の病理 1
6		6	小細胞肺癌の臨床 1
7		7	大細胞肺癌の病理 1
8		8	大細胞肺癌の臨床 1
9		9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床 1
10		10	非小細胞肺癌の化学療法 1
11		11	小細胞肺癌の化学療法 1
12		12	転移性肺癌の病理 1
13		13	転移性肺癌の臨床 1
14		14	悪性胸膜中皮腫の病理 1
15		15	悪性胸膜中皮腫の臨床 1

2023 年度講義シラバス（８）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	森川　慶	担当教員連絡先	内線　81366		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	気管支鏡の実技を習得する				
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。				
達成目標	1.気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 2.経気管支肺生検ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度，および手技の習熟度，問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支鏡の挿入および観察手技 1	1	
2	気管支鏡の挿入および観察手技 2	2	
3	気管支命名法 1	3	
4	気管支命名法 2	4	
5	気管支鏡所見 1	5	
6	気管支鏡所見 2	6	
7	気管支鏡所見 3	7	
8	気管支鏡所見 4	8	
9	経気管支肺生検 1	9	
10	経気管支肺生検 2	10	
11	経気管支肺生検 3	11	
12	ナビゲーション 1	12	
13	ナビゲーション 2	13	
14	EBUS－GS法 1	14	
15	EBUS－GS法 2	15	

2023 年度講義シラバス（９）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡実習Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	森川　慶	担当教員連絡先	内線　81366		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	1 年		
テーマと目的	気管支鏡と flexi-rigid type 胸腔鏡の実技を習得する				
講義計画	気管支鏡の手技を実施する。 flexi-rigid type 胸腔鏡の手技を実施する。				
達成目標	1.気管支鏡を用いて内視鏡的観察ができる。 2.経気管支肺生検ができる。 3.flexi-rigid type 胸腔鏡を用いて観察と生検ができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度，および手技の習熟度，問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	気管支鏡所見 5
2		2	気管支鏡所見 6
3		3	気管支鏡所見 7
4		4	EBUS － TBNA 1
5		5	EBUS － TBNA 2
6		6	EBUS － TBNA 3
7		7	蛍光気管支鏡 1
8		8	蛍光気管支鏡 2
9		9	NBI 1
10		10	NBI 2
11		11	flexi-rigid type 胸腔胸の手技 1
12		12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 2
13		13	胸腔鏡所見 1
14		14	胸腔鏡所見 2
15		15	胸腔鏡所見 3

2023 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅲ			必修/選択	必修
担当教員	木田　博隆	担当教員連絡先	内線　80737		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて，気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1. 気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2. flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支鏡の歴史 2	1	
2	気管支鏡の適応と禁忌 3	2	
3	気管支鏡の適応と禁忌 4	3	
4	軟性気管支鏡の機器と準備 2	4	
5	周辺機器 2	5	
6	局所麻酔 2	6	
7	気管支鏡の挿入と観察 2	7	
8	気管支の解剖 2	8	
9	気管支鏡所見 － 正常編 2	9	
10	気管支鏡所見 － 異常編 4	10	
11	気管支鏡所見 － 異常編 5	11	
12	気管支鏡所見 － 異常編 6	12	
13	胸腔鏡の歴史 2	13	
14	flexi-rigid type 胸腔胸の適応と禁忌 2	14	
15	flexi-rigid type 胸腔鏡の機器と準備 2	15	

2023 年度講義シラバス（１１）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器内視鏡学Ⅳ			必修/選択	必修
担当教員	木田　博隆	担当教員連絡先	内線　80737		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器内視鏡の実際を理解する				
講義計画	症例に基づいて，気管支鏡および flexi-rigid type 胸腔鏡の適応と実際を検討する				
達成目標	1．気管支鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる 2．flexi-rigid type 胸腔鏡検査について症例に基づいて計画を立てられる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表，受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	経気管支的肺生検 － ナビゲーション 1
2		2	経気管支的肺生検 － ナビゲーション 2
3		3	経気管支的肺生検 － ナビゲーション 3
4		4	EBUS － TBNA 1
5		5	EBUS － TBNA 2
6		6	EBUS － TBNA 3
7		7	蛍光気管支鏡 1
8		8	蛍光気管支鏡 2
9		9	クライオバイオプシー 1
10		10	クライオバイオプシー　2
11		11	気管支鏡の合併症と対処法 2
12		12	flexi-rigid type 胸腔鏡の手技 2
13		13	胸腔鏡所見 3
14		14	胸腔鏡所見 4
15		15	胸腔鏡の合併症と対処法 2

2023 年度講義シラバス（１２）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅲ			必修/選択	必修
担当教員	半田　寛	担当教員連絡先	内線　80536		
単位数	2単位（前期 2）	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して，その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1.基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2.基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支喘息の病理 2	1	
2	気管支喘息の臨床 2	2	
3	再発性多発軟骨炎の病理と臨床 2	3	
4	Wegener肉芽腫症の病理と臨床 2	4	
5	特発性間質性肺炎の病理 2	5	
6	特発性間質性肺炎の臨床 2	6	
7	好酸球性肺炎の病理 2	7	
8	好酸球性肺炎の臨床 2	8	
9	過敏性肺臓炎の病理 2	9	
10	過敏性肺臓炎の臨床 2	10	
11	膠原病肺の病理 2	11	
12	膠原病肺の臨床 2	12	
13	サルコイドーシスの病理 2	13	
14	サルコイドーシスの臨床 2	14	
15	その他の間質性肺炎の病理と臨床 2	15	

2023 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器病理と臨床各論Ⅳ			必修/選択	必修
担当教員	古屋　直樹	担当教員連絡先	内線 80988		
単位数	2単位（後期 2）	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な呼吸器疾患の病理と各種疾患の臨床を理解する				
講義計画	種々の基本的な呼吸器疾患症例を通して，その病理と臨床像を検討する				
達成目標	1.基本的な呼吸器疾患について病理を説明できる 2.基本的な呼吸器疾患の臨床像を説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	肺腺癌の病理 2
2		2	肺腺癌の臨床 2
3		3	肺扁平上皮癌の病理 2
4		4	肺扁平上皮癌の臨床 2
5		5	小細胞肺癌の病理 2
6		6	小細胞肺癌の臨床 2
7		7	大細胞肺癌の病理 2
8		8	大細胞肺癌の臨床 2
9		9	細気管支肺胞上皮癌の病理と臨床 2
10		10	非小細胞肺癌の化学療法 2
11		11	小細胞肺癌の化学療法 2
12		12	転移性肺癌の病理 2
13		13	転移性肺癌の臨床 2
14		14	悪性胸膜中皮腫の病理 2
15		15	悪性胸膜中皮腫の臨床

2023 年度講義シラバス（１４）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器疾患特論Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する				
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する				
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し，対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気管支拡張症	1	
2	嚢胞性肺疾患	2	
3	慢性閉塞性肺疾患 1	3	
4	慢性閉塞性肺疾患 2	4	
5	過換気症候群	5	
6	気管支喘息 1	6	
7	気管支喘息 2	7	
8	PIE症候群	8	
9	アレルギー性気管支肺アスペルギルス	9	
10	過敏性肺臓炎	10	
11	肺ヒスチオサイトーシスX	11	
12	膠原病に伴う肺疾患	12	
13	サルコイドーシス	13	
14	特発性間質性肺炎 1	14	
15	特発性間質性肺炎 2	15	

2023 年度講義シラバス（１５）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器疾患特論Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	峯下　昌道	担当教員連絡先	内線　80463		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	個々の呼吸器疾患についてその臨床的特徴と問題点を理解する				
講義計画	臨床例を通して個々の呼吸器疾患の臨床的特徴と問題点を検討する				
達成目標	1. 個々の呼吸器疾患の臨床的特徴を説明できる 2. 個々の呼吸器疾患の問題点を列挙し，対応方法を説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	薬剤性間質性肺炎
2		2	無気肺
3		3	ARDS
4		4	肺胞蛋白症
5		5	肺胞微石症
6		6	原発性肺癌 － 主要症候
7		7	原発性肺癌 － 診断
8		8	原発性肺癌 － 治療
9		9	転移性肺腫瘍
10		10	肺血栓，塞栓症
11		11	自然気胸
12		12	胸膜炎，膿胸
13		13	胸膜腫瘍
14		14	縦隔炎
15		15	縦隔腫瘍

2023 年度講義シラバス（１６）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器インターベンション実習Ⅰ			必修/選択	必修
担当教員	半田　寛	担当教員連絡先	内線　80536		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	1.呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し，対処できる 2.適切な手技選択し，実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度，および手技の習熟度，問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	呼吸器インターベンション適応と禁忌 1	1	
2	呼吸器インターベンション適応と禁忌 2	2	
3	硬性気管支鏡 1	3	
4	硬性気管支鏡 2	4	
5	気道狭窄の診断 1	5	
6	気道狭窄の診断 2	6	
7	気道ステントの種類と適応 1	7	
8	気道ステントの種類と適応 2	8	
9	気道ステント挿入の実際 1	9	
10	気道ステント挿入の実際 2	10	
11	気道異物 1	11	
12	気道異物 2	12	
13	APC焼灼 1	13	
14	APC焼灼 2	14	
15	バルーン拡張	15	

2023 年度講義シラバス（１７）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器インターベンション実習Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員	半田　寛	担当教員連絡先	内線　80536		
単位数	1単位（後期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器インターベンションに関する基礎的手技を習得する				
講義計画	呼吸器インターベンション症例の基礎的手技を実施する				
達成目標	1.呼吸器インターベンション前後の問題点について説明し，対処できる 2.適切な手技選択し，実施できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と実習態度，および手技の習熟度，問題点の理解度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1		1	Nd－YAGレーザー
2		2	クライオテラピー
3		3	気道内圧測定1
4		4	気道内圧測定2
5		5	気道狭窄とチョークポイント 1
6		6	気道狭窄とチョークポイント 2
7		7	良性気道狭窄とインターベンション
8		8	悪性気道狭窄とインターベンション
9		9	食道気管瘻の治療法 1
10		10	食道気管瘻の治療法 2
11		11	呼吸器インターベンションの合併症 1
12		12	呼吸器インターベンションの合併症 2
13		13	COPDの内視鏡的治療 1
14		14	COPDの内視鏡的治療 2
15		15	気管支喘息の内視鏡的治療

2023 年度講義シラバス（１８）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器腫瘍学			必修/選択	選択
担当教員	古屋　直樹	担当教員連絡先	内線　80988		
単位数	2単位（前期1，後期1）	履修年次	1年		
テーマと目的	呼吸器の腫瘍性疾患の臨床を理解する				
講義計画	原発性肺癌，転移性肺癌，悪性胸膜中皮腫の診断と治療を解説する				
達成目標	原発性肺癌，転移性肺癌，悪性胸膜中皮腫の診断と治療について説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	非小細胞肺癌の診断 1	1	転移性肺癌の診断 1
2	非小細胞肺癌の診断 2	2	転移性肺癌の診断 2
3	非小細胞肺癌の診断 3	3	転移性肺癌の診断 3
4	非小細胞肺癌の治療 1	4	転移性肺癌の治療 1
5	非小細胞肺癌の治療 2	5	転移性肺癌の治療 2
6	非小細胞肺癌の治療 3	6	転移性肺癌の治療 3
7	非小細胞肺癌の治療 4	7	転移性肺癌の治療 4
8	小細胞肺癌の診断 1	8	悪性胸膜中皮腫の診断 1
9	小細胞肺癌の診断 2	9	悪性胸膜中皮腫の診断 2
10	小細胞肺癌の診断 3	10	悪性胸膜中皮腫の診断 3
11	小細胞肺癌の治療 1	11	悪性胸膜中皮腫の治療 1
12	小細胞肺癌の治療 2	12	悪性胸膜中皮腫の治療 2
13	小細胞肺癌の治療 3	13	悪性胸膜中皮腫の治療 3
14	小細胞肺癌の治療 4	14	悪性胸膜中皮腫の治療 4
15	化学療法の有害事象と対処法 1	15	化学療法の有害事象と対処法 2

2023 年度講義シラバス（１９）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	呼吸器感染症学			必修/選択	選択
担当教員	井上　健男	担当教員連絡先	内線　81307		
単位数	2単位（前期1，後期1）	履修年次	2年		
テーマと目的	呼吸器領域における感染症を理解する				
講義計画	呼吸器領域における感染症を解説する				
達成目標	呼吸器領域における感染症の診断，治療，感染拡大予防対策について説明できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。　1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は呼吸器系臨床研究の基礎となる講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	細菌感染症の診断 1	1	肺結核の治療 1
2	細菌感染症の診断 2	2	肺結核の治療 2
3	細菌感染症の診断 3	3	肺結核の治療 3
4	細菌感染症の治療 1	4	マイコプラズマ感染症の診断 1
5	細菌感染症の治療 2	5	マイコプラズマ感染症の診断 2
6	細菌感染症の治療 3	6	マイコプラズマ感染症の治療 1
7	ウィルス感染症の診断 1	7	マイコプラズマ感染症の治療 2
8	ウィルス感染症の診断 2	8	クラミジア，リケッチア感染症の診断 1
9	ウィルス感染症の診断 3	9	クラミジア，リケッチア感染症の診断 2
10	ウィルス感染症の治療 1	10	クラミジア，リケッチア感染症の治療 1
11	ウィルス感染症の治療 2	11	クラミジア，リケッチア感染症の治療 2
12	ウィルス感染症の治療 3	12	非定型肺炎の診断1
13	肺結核の診断 1	13	非定型肺炎の診断2
14	肺結核の診断 2	14	非定型肺炎の治療1
15	肺結核の診断 3	15	非定型肺炎の治療2

2023 年度講義シラバス（２０）

講義コード	※	専攻分野	呼吸器内科学		
講義題目	気道内圧測定			必修/選択	選択
担当教員	西根　広樹	担当教員連絡先	内線　80484		
単位数	1単位（前期 1）	履修年次	2年		
テーマと目的	気道内圧測定とその臨床的価値を理解する。				
講義計画	気道内圧測定の原理、臨床的価値、及び問題点について解説する				
達成目標	気道内圧測定の原理と臨床応用の実際について述べることができる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読み、内容を確認すること。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	自立して研究を行い、成果を英語論文として学術誌に報告する能力を得ることを卒業認定・学位授与の基準とする。本講義は当科における呼吸器系臨床研究の一例を提示する講義である。				

講　義　内　容

前期(回)	内　容　（出席㊞）	後期(回)	内　容　（出席㊞）
1	気道内圧測定について	1	
2	気道内圧測定の原理	2	
3	気道内圧測定の実際	3	
4	健常人の気道内圧所見	4	
5	気道狭窄時の気道内圧所見　1	5	
6	気道狭窄時の気道内圧所見　2	6	
7	気道狭窄時の気道内圧所見　3	7	
8	気道狭窄時の気道内圧所見　4	8	
9	気道拡張術の効果判定と気道内圧　1	9	
10	気道拡張術の効果判定と気道内圧　2	10	
11	気道拡張術の効果判定と気道内圧　3	11	
12	気道拡張術の効果判定と気道内圧　4	12	
13	事例検討　1	13	
14	事例検討 2	14	
15	気道内圧測定の問題点と将来展望	15	